専修大学
図書館だより

第60号
2006.12

ゲオルク・ハインリッヒ・フォン・ラングスドルフ著
『1803年～1807年の世界周航記』より

目　次

「文庫」のたのしみ（土屋 昌明）…… 2
シリーズ　ムーサの神殿　貴重書紹介
『1803年～1807年の世界周航記』（島田 孝右）…… 3
海外大学図書館探訪記（大八木 清一）…… 4
本の世界、Netの世界（大慈彌 俊二）…… 6
図書館実習を終えて …… 7
神田分館 …… 7
展示紹介「没後125年ドストエフスキー」
「知って得する情報検索講習会」
図書館インフォメーション …… 8

臨時開館
年末年始にも開館します

●対象館
本館（4階AVプラザを除く）
神田分館

●開館日
平成18年12月3日・10日・17日・24日・26日
平成19年1月7日・8日・14日

●開館時間
10時～17時

＊法科大学院分館については、図書館ホームページをご覧ください。

「文庫」のたのしみ

土屋 昌明

図書館を探索して「文庫」はたのしい、ということを知った。

「文庫」というのは文庫本のことではない。コレクションや個人の蔵書を一括して収蔵した書架のことである。本学図書館には、かの有名なベルンシュタイン文庫などとともに、個人の文庫もある。中でも、児島文庫・黒龍文庫・野原文庫が私にとっておもしろい。

児島文庫は、戦史研究者で作家の児島襄氏の旧蔵書。児島氏は『満州帝国』などの大著で非常に有名。黒龍文庫は、高橋勇氏が収集した旧満州関係の本。野原文庫は、中国近現代史専攻で本学教授だった野原四郎氏の本。

この三文庫はそれぞれにおもしろいが、さらに有意義なのは、本館M3階の書架に隣り合っており、中国と日本の関わりにおいて、この三文庫が連続していることだ。児島文庫には、日本の軍部が中国・満州地区に進出する状況に関わる本がたくさんある。黒龍文庫には、戦前に満州地区に居住した日本人に関わる本がたくさん入っている。そして野原文庫には、戦前・戦後の歴史や中国共産党・文化大革命などのことを論じた本が多い。要するに、個人の篤志で偶然集まった三文庫が、期せずして近現代の中国・日本の関わりを追跡する筋道を提供してくれているのである。

しかし、文庫のたのしみは実はこれから。個人文庫はその個人の好みを反映する。だから文庫の書架を眺めているだけで、その人の人柄がしのばれるし、自分とは異なった視点や趣味に驚かされる。例えば黒龍文庫には、満州在住者が戦後に書いた回想録や写真集が多い。この類の本は出版された後、著者も読者も高齢化あるいは死去し、戦後の経済成長ですっかり忘却され陳腐化してしまった。しかし私たちのように、子供の頃から平和で他所の国の人々とろくに接したことすらない者が読むと、多民族の中での命がけの生活が描かれており、へたな小説よりよっぽどおもしろい(ちょっと不謹慎だが)。

また、個人文庫はもともと個人の蔵書だから、図書館の本にはないはずの「書き込み」がある。野原教授が本に書き込んだ傍線は、なぜか黒いインクでひょろひょろ曲がっていて汚い(満員電車の中で立ったまま線をひいた?)。どういう論点に傍線を引くかもおもしろいが、もっとおもしろいのは書き込まれたコメント(ご自分で見てください)。

さらに驚くのは個人のノートである。児島文庫には、小説や論文を書くためのノートや、コリア語の参考文献を翻訳したノートがある。児島氏は、コリア語の本をまるごとコピーして、その本文の一行一行を切り貼りし、行の下に日本語訳を書いている。労力削減のためか、日本語と同じ漢語の部分はそのままにしている。その猛勉強ぶりに驚かされた。

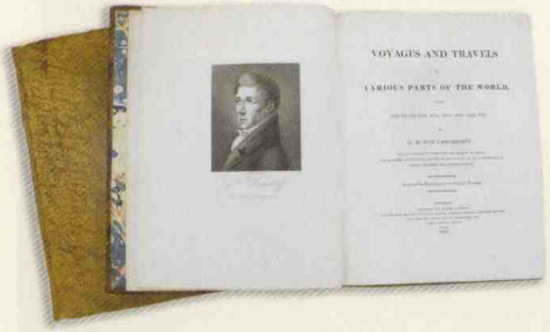
個人文庫は、ある方面の本がまとまっているので、既存の見方では気がつかない本の存在に気がつかされる。書架に並ぶ背表紙を眺めているだけでも得るところが多い。文庫それ自体が一冊の本のようなものなのだ。

(つちや まさあき:経済学部教授)

ムーサの神殿：
ムーサ(ミューズ)とは、ギリシャ神話で学問や芸術などあらゆる知的活動を司る9人の女神たちのことです。「ムーサの神殿(ムーセイオン)」は、美術館、博物館、図書館を表しており、ミュージアムの語源となっています。
古代エジプトの首都アレクサンドリアにつくられた総合学術機関「ムーセイオン」は、これに由来しており、その付属図書館が世界最古の図書館といわれています。

ゲオルク・ハインリッヒ・フォン・ラングスドルフ著

『1803年～1807年の世界周航記』



Langsdorff, G. H. von (Georg Heinrich), 1774-1852
Voyages and travels in various parts of the world, during the years 1803, 1804, 1805, 1806, and 1807.
London : Printed for Henry Colburn , 1813-1814.
2 v. : ill. (metalcuts), map (folded), music ; 28 cm.

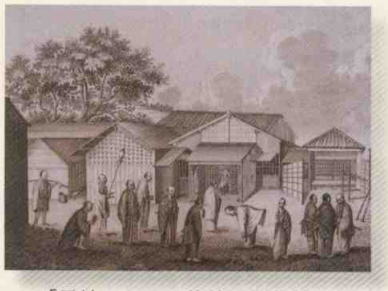
島田 孝右

本書は1804年10月８日に来日したドイツ人医師・科学者ラングスドルフの記録(英語版)である。日本の記述にかなりスペースをさいている。同じドイツ人医師で日本と縁が深いのは、『日本誌』(1727)で有名なエンゲルベルト・ケンペルである。ケンペルは長崎の出島にオランダ船で来たが、一方ラングスドルフが乗っていたのはロシア船ナデージュダ号である。同船には、日本との通商関係を樹立する目的をもった遣日全権大使ニコライ・レザーノフが乗船し、あるいはクルーゼンシュテルンが艦長であった。残念ながら通商交渉は不成功に終わった。

ラングスドルフの世界周航記に、1810年ごろヨーロッパ人が世界をどのように認識していたかをよく示す一枚の世界地図がある。それは私たち日本人が見慣れている日本が中央に描かれている地図ではなく、日本が東の端に小さく位置しているものである。この地図の原型は、18世紀にヨーロッパで製作されたと思われるが、イギリスでは、1755年に刊行された『ジェントルマンズ・マガジン』(第25号)に掲載された世界地図や『イギリス海洋史』(1760)などに見られる。ラングスドルフの世界地図は、オーストラリアとニュージランド周辺がより正確に描かれており、ジェームズ・クックやラ・ペルーズらの航海の成果が生かされているのであろう。

面白いのは、同じ来日の記録であるクルーゼンシュテルンの航海記(英語版、1813)には、世界地図はなく、一枚の日本地図だけがあることである。恐らく、科学者であったラングスドルフは、日本や他の多くの国々を見聞したいという願いを持っており、本書の世界地図はその彼の気持ちを象徴しているように思える。あるいは、クルーゼンシュテルンがすでに日本地図を載せた本を刊行することを知っていて、重複することを避けるために、世界地図を載せることにしたのかも知れない。とにかく、ラングスドルフの地図は、ヨーロッパ各国が激しくしのぎを削った18世紀初頭の広大な世界劇場である。その地図に描かれた日本は、頑なに鎖国政策にこだわっている。ヨーロッパからみれば、日本は極東の小国にすぎないことを世界情勢に疎い日本人は認めようとはしなかったのである。

(しまだ たかう：商学部教授)


「長崎における使節の居住地」

「世界地図」

「日本人の服装」

海外大学図書館探訪記

図書館神田分館　大八木　清一

オレゴン大学図書館正面

私は今夏、職員海外研修によりオレゴン大学とサンフランシスコ州立大学(アメリカ)、およびブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)に派遣されました。

この研修の内容は、オレゴン大学付属の英語研修機関であるAEI (American English Institute) の10週間の夏期集中英語講座受講と、海外大学図書館の調査でした。

海外大学図書館の調査では、教育支援および利用者満足度向上のための試みについて、その優れている点を学ぶために調査を行いました。

調査方法は、現地の図書館を毎日、実地に利用者として利用し、図書館サービスを観察・検証することと、図書館サービスに直接携わっているライブラリアンたちに、インタビューを行うこととをおもな方法としました。

この調査を行った結果、おもに以下の点がその優れた点であるとの見解に達しました。

第一点は勉学をする場としての利用環境がとてもよく整備されていることです。

私の回った海外大学は、そもそも図書館を取り巻くキャンパスの規模が日本の大学とは一回りも二回りも違い、図書館も非常に贅沢な造りになっていました。

オレゴン大学の主要な図書館であるKnigft Library(ナイトライブラリー)を例にとると、外壁は赤レンガで覆われ、重厚でクラシカルな雰囲気を漂わせていましたが、一歩館内に足を踏み入れるとモダンな雰囲気の、機能的な空間が広がっていました。

閲覧のためのスペースも十分に取ってあり、空間のデザインも優れていて、利用者は落ち着いた雰囲気の中で勉学に集中することが出来るようになっていました。

第二点はサービス・カウンターが非常に充実していることです。

図書館のサービス・カウンターと言えば、

オレゴン大学図書館のミュージック・ライブラリアン

サンフランシスコ州立大学図書館の入口付近

まずレファレンス・ライブラリアンのいるカウンターですが、そこには社会科学や人文学など、学問分野ごとに専門のレファレンス・ライブラリアンが配置され、利用者はライブラリアンの専門性が生かされたレファレンス・サービスを受けられるようになっていました。

図書館内には、その他にもビジネス情報や政府刊行物を扱うカウンター、マイクロフィルムなどの視聴覚資料を扱うカウンター、音楽資料のサービスを専門に行うカウンター、コンピュータなどの情報技術支援サービスを行うカウンターなどが設置されており、これらのカウンターを通じて多様なサービスが利用者に提供されていました。

第三点はWeb（ホームページ）上における教育支援と利用サービスが充実していることです。

ブリティッシュ・コロンビア大学の法律図書館のホームページには、レファレンス機能があり、その中にリサーチ・ガイドやコース・ガイドを設け、リーガル・リサーチについての基礎知識や科目コースごとの必須知識、関連分野を紹介していました。学生達はいつでもこの情報をもとにして勉学を進めることが出来るようになっていました。

この他にも、ホームページで案内されている図書館ツアーや講習会への参加申込が直接Web上で行えるようになっていたり、図書館サービスの記録を蓄積したブログもあり、このブログを見れば、過去に利用者がどのようなサービスを、どのような形で受けたのかが分かるようになっていました。

さらに、図書の購入リクエストもWeb上で出来るようにするなどして、Web機能を駆使して様々な面から教育支援と利用サービスの充実を図っていました。

第四点は教育サービスの創造性の高さです。

コンピュータ技術の発達や資料のデジタル化などが急速に進む現在、図書館サービスは多様化する傾向にあります。

オレゴン大学図書館には、教育技術センターやメディアサービスなどの部門があり、対話型のメディア教材を開発したり、教員がメディアを用いて効果的に授業を行えるようにするためのコンサルティングや研修を行っていました。これらのことから、海外の大学では図書館が主体性を持って、学生の勉学に役立つツールや、教員の授業を支援するサービス技術を開発している様子がうかがえました。

ブリティッシュ・コロンビア大学図書館の閲覧室

以上、四点をおもな調査結果として挙げましたが、これら海外大学図書館の優れた点は図書館の組織力・資金力とともに、個々のライブラリアンの、情報科学を柱とする学術的な知力を土台として実現されていると感じました。

今回の海外研修は、海外の大学図書館と日本の大学図書館との間に、図書館員（＝ライブラリアン）の学内での地位を始め、組織・体制等の面でさまざまな違いがあることを実地に発見出来、大変有意義なものとなりました。

今後、本研修で得たものを、さらに磨きながら日々の業務の中で少しでも多く活かし、図書館サービスの向上に寄与していきたいと考えています。

（おおやぎ せいいち：図書部図書課）

本の世界、Netの世界

司書のつぶやき

図書館神田分館　大慈彌　俊二

神田分館の入り口前の広場はテーブルやベンチが置かれ、天気の良い日は多数の学生たちが憩いの場として活用している。そこを通りかかると、「最近、酔っ払いによる交通事故が多いよね。どうなっているのかしら。一緒に、少し調べてみない？」と、友人と会話する女子学生の声を耳にした。確かに飲酒運転による交通事故のニュースが、このところ頻繁に報道されているし、学生にも高い関心を呼んでいるようだ。それであれば、図書館に質問が寄せられる前に、ここ数年の傾向等を調べておこう。

先ずGoogleに[飲酒運転事故数]を入力する。しかし検索結果の画面に表示された項目は、飲酒運転による事故のニュースや、それに関連したブログがほとんどで、新聞記事の見出しに近いものが多い。また、検索結果の件数が膨大で、信頼できる情報や必要な情報を即座に判断するには困難を感じる。多年にわたる傾向を調べるのは、どうもNetの世界は広すぎて迷子になりそうだ。

そうなると、次は文献から探してみよう。『交通安全白書(平成18年版)』(R681/Ko94)を開くと、交通違反取締り件数の内訳に<酒酔い・酒気帯び運転>が14万件とある。『白書』をさらに遡って調べると、交通違反件数は過去5年間で15.1％増にも関わらず、飲酒運転による違反は毎年減少し、5年間で8万件(36.6％)も減少していた。

また、『警察白書(平成18年版)』(R317.7/Ke27)には、平成8年から17年までの<飲酒運転と最高速度違反による死者数の推移>がグラフで表されており、これを見ても年々減少しているではないか。減少の大きな要因は、『警察白書(平成17年版)』20～21頁に掲載されているように、平成13年に危険運転致死傷罪が新設され、厳しい罰則が適用されるようになったことが考えられる。

統計に反して、今年は飲酒運転による事故が頻発しているという印象があるのはどうしてだろう。再びWebで今年の情報を探してみた。[警察庁　飲酒運転事故]と入力すると、<平成18年上半期の違反件数と死亡事故>に関する情報があった。飲酒運転による違反取締り件数は、平成18年上半期の累計が66,686件(前年比－2,738件)であるが、飲酒運転による死亡事故は、昨年からやや増加傾向にあり、前年比13件増(＋3.7％)となっている。

他の検索結果に、「酒気帯び死亡事故増加」がある。これによると平成18年の1～8月に381件起きており、前年同期に比べて21件の増加がわかる。これらを見ても、飲酒運転による事故は、印象に比べ著しくは増えていない。悲惨な事故が続発したこと、公務員の起した事故が多かったことなどで、マスコミの報道が活発になり、実態とやや異なる印象を受けてしまったのか。

複数の資料(データ)を利用して、得たい情報に効率良くたどり着くには、“本の世界”と“Netの世界”を何度か往復することになるが、日ごろからいろんな資料に興味を持っていると、意外なときに役立ってくれる。開架閲覧室や書庫をブラウジング(本の拾い読み)して、思いがけない本に出会う喜びを多くの人が発見して欲しい。

(おおじみ しゅんじ：図書部調査役)

図書館実習を終えて

本学の司書課程を履修している5名の学生が図書館の実習を行いました。

利用者と接する機会の多い閲覧業務(貸出・返却、配架、展示等)や、普段は目にすることの少ない受入業務(図書の発注、受入等)、整理業務(図書の目録作成、装備等)、雑誌業務(雑誌の受入、装備、配架等)など、図書館業務の全般を経験して何を感じたか、実習生の中から２人に感想を寄せてもらいました。

実習風景

実習期間及び受入人数				
	生　田	10月16日(月)	～27日(金)	２名
		11月 6日(月)	～17日(金)	２名
	神　田	11月13日(月)	～24日(金)	１名

ネットワーク情報学部
ネットワーク情報学科4年　**阿部　珠美**

図書館実習を終えて、普段意識しない、目に見えない多くのことに支えられて、図書館サービスが成り立っているということを実感した。

今までの私にとっての図書館とは、大量の本があり、好きな本を借り、ときには調べ物ができる所でしかなかった。司書課程の授業で、その他にも多くの機能・役割があることは知っていたが、そのために図書館が何をしているのかはまったく分からなかった。

実習を通して、本が書架に並べられるまでには多くの人の手で様々な作業が行われており、どうすれば利用しやすいかが常に考えられていることを知り、とても驚いた。私たち利用者が見ているのは図書館のほんの一面に過ぎなかったのだ。また、自分が知らない便利なサービスがまだ数多くあることも知り、もっと早くに知っていればと少し悔しい思いをした。

残り少ない大学生活、この実習で学んだことを生かして、どんどん図書館を利用していこうと思う。

文学部人文学科4年　**松田　哲也**

僕はコンビニでのバイトを4年間続けているので、お店での発注、納品、検品、陳列、そして販売という一連の流れは経験しています。それでお金をもらっているわけですが、それと同じような流れを持つ図書館では利益は発生しません。だというのに、図書館も顧客(＝利用者)のニーズには応えなければならない。

なぜならば、図書館は利用者から必要とされるからこそ存在するわけで、「ここにはまともな蔵書はない」などと判断されてしまってはその存続が危うくなってしまう(想像ですが、図書費用の削減なんてことになるのかもしれません)。そうならないためには相応の努力が必要となるわけです。

実習を通してそのような現場を間近で見て、一部ではありますが図書館の業務に触れてみて、思ったことというか、改めて思い知らされたことは、図書館というのはやはりサービス業のひとつなのだということです。この実習ではそんな図書館の職員の方々の努力と苦労を垣間見ることができたのではないかと思います。

そのような中で、僕たちのような仕事の邪魔にしかならない実習生などを受け入れてもらったのは誠にありがたいことです・・・。

神田分館

展示紹介

没後125年 ドストエフスキー　－ 近代精神とロシアの大地 －

期 間　平成18年11月1日(水) ～ 12月22日(金)

ドストエフスキーの作品を軸に、後期の大作群で鮮明となった、近代精神と伝統的ロシア精神との相克をモチーフとした展示を開催しています。パンフレットには、伊吹克己教授の「ドストエフスキー案内」が掲載されていて、私たちをドストエフスキーの世界に導いてくれます。神田分館で文学の分野を扱うのは大変珍しいことですが、読書に適したこの季節に、どうぞ本展示をお楽しみください。

主な展示資料

『ドストエフスキー全集』
木村浩[ほか]訳　新潮社
1978-1980年

『ドストイェフスキイの世界観』
ベルジャーエフ著　香島次郎訳
大空社　1996年(朱雀書林　昭和16年の複製)

『ドストエフスキイの生活』
小林秀雄著　新潮社
2003年(小林秀雄全作品 11)

知って得する情報検索講習会(個人レッスン編)

■日　　程
11月１日(水)～12月25日(月)

■時　　間
月～金　13：00 ～ 13：30
　　19：30 ～ 20：00
土　14：30 ～ 15：00
日　14：30 ～ 15：00
(開館日のみ)

■集合場所　カウンター前

■内　　容
レポート作成に必要な情報収集の方法を一人一人データベースを使って説明します。

図書館インフォメーション

＜図書館カレンダー＞

12 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 ◎	4	5	6	7	8	9
10 ◎	11	12	13	14	15	16
17 ◎	18	19	20	21	22	23
24 ◎ 31	25	26 ◎	27	28	29	30

1 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7 ◎	8 ◎	9	10	11	12	13
14 ◎	15	16	17	18	19	20 A
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30 ★	31 ★			

2 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2 ★	3 ★
4	5 ★	6 ★	7 ★	8 ★	9	10
11	12	13	14	15 ★	16 ★	17 ★
18	19 ★	20 ★	21 ★	22 ★	23 ★	24 ★
25	26 ★	27 ★	28			

3 月

日	月	火	水	木	金	土
				1 ★	2 ★	3 B
4	5 ★	6 ★	7 ★	8 ★	9 ★	10 ★
11	12 ★	13 ★	14 ★	15 ★	16 ★	17 ★
18	19 ★	20 ★	21	22	23 ★	24 ★
25	26 ★	27 ★	28 ★	29 ★	30 ★	31 ★

開館時間：無印　本館・生田分館　月～金　9：00～21：00（土曜日は19：00）
神田分館・分室　月～土　9：00～22：00
★印　本館・生田分館　月～金　9:00～17:00（土曜日は 12:00）
神田分館　月～土　9:00～20:00
神田７号館分室　月～金　9:00～19:30（土曜日は 14:30）
◎印　本館・神田分館　10：00～17：00（生田分館・神田７号館分室休み）

休館日：　全館休館　A　本館・生田分館休み　B　神田分館・分室休み

＊開館時間の変更および臨時の開館日・休館日は、その都度ホームページや掲示で案内します。
＊法科大学院分館の開館情報は「専修大学図書館カレンダー(法科大学院分館)」をご覧ください。

年末年始にも開館します
12月26日、1月７日、1月８日

＜お知らせ＞

■日曜日と年末年始の臨時開館

開館する図書館：本館（４階AVプラザを除く）
神田分館
開　館　日：平成18年12月3日（日）、10日（日）、17日（日）、24日（日）、26日（火）
平成19年 1月7日（日）、８日（月）、14日（日）
開館時間：10時～ 17時

■12月から3月の日曜・祝日以外の休館日

●全館（法科大学院分館を除く）
12月27日（水）～ 1月６日（土）冬期休暇
1月20日（土）大学入試センター試験　本館・生田分館のみ
2月 1日（木）地区入学試験
2月 9日（金）～ 2月14日（水）一般前期入学試験期間
2月28日（水）一般後期入学試験
3月 3日（土）二部入学試験 神田分館・神田分館７号館分室のみ
3月22日（木）卒業式（学部）・学位記授与式（大学院）

■冬期・春期特別貸出

	冬　期	春　期
取扱期間	平成18年12月6日（水）～ 12月22日（金）	平成19年１月26日（金）～３月17日（土）
貸出対象者	学部学生（聴講生、科目等履修生を含む）	
冊数	10冊まで（通常の貸出冊数と同じ）	
返却期限日	平成19年１月12日（金）	平成19年４月6日（金）

■卒業・大学院修了年次生の皆さんへ

●卒業・大学院修了年次生の返却期限日は次のとおりです。

返却期限日：平成19年３月3日（土）

図書館では、毎年、図書を借りたまま卒業する利用者に大変困っています。在学生に迷惑がかからないように、図書館から借りている図書について、確認をお願いします。
紛失、問合せ等はカウンターで受付けます。

●卒業後も図書館を利用できます。

卒業後も随時図書館を利用することができます。継続的に図書館を利用する場合は、校友の図書館利用カードを発行します。図書館カウンターにお申し込みください。
館外貸出は5冊、20日間まで。申込時には本人確認できるもの（運転免許証など）をお持ちください。

■「ユーザーズマニュアル」配布中

法学部学生のためのOPAC＆法情報検索にお役立ちのマニュアルができました。
これ１冊でゼミ論・レポート“楽(6)～く　ラク”

図書館では、利用者の個人情報を本人の同意なく第三者に提供する事はありません。

専修大学図書館だより　第60号

発行日：2006年12月1日
編集・発行：専修大学図書館（館長　大庭 健）

専修大学図書館　本館　神奈川県川崎市多摩区東三田2－1－1　〒214－8580　Tel.044－911－1274
生田分館　神奈川県川崎市多摩区東三田2－1－1　〒214－8580　Tel.044－911－7138
神田分館　東京都千代田区神田神保町3－8　〒101－8425　Tel.03－3265－8339
神田分館7号館分室　東京都千代田区神田神保町3－8　〒101－8425　Tel.03－3265－7035
法科大学院分館　東京都千代田区神田神保町3－8　〒101－8425　Tel.03－3265－6914
専修大学図書館ホームページ　URL：http: // www.lib.senshu-u.ac.jp/